

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 5日現在

平成25年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010 ~ 2012

課題番号：22520384

研究課題名（和文）

構文の機能拡張と名詞句省略の相互関係に関する認知類型論的研究：アジア言語を対象に

研究課題名（英文）

A Cognitive-Typological Study of the Interrelationship between Functional Extension of Grammatical Constructions and Noun Phrase Ellipsis

研究代表者

堀江 薫 (HORIE KAORU)

名古屋大学・国際言語文化研究科・教授

研究者番号：70181526

研究成果の概要（和文）：

本研究は、語用論と文法構造の相互分担関係が言語間でどのように異なっているかを言語類型論と認知・機能主義的言語学の方法論を複合させた「認知類型論」の分析手法を用いて解明した。具体的には、「パラレルコーパス」および第二言語習得データを用いて日韓語、および中国語、インド諸語における「修飾構文」「名詞化構文」「授受構文」という複文の語用論的機能拡張現象を認知類型論の分析手法を用いて解明した。

研究成果の概要（英文）：

This study adopted an analytical method of Cognitive Typology, which combined the methodologies of linguistic typology and cognitive-functional linguistics, to explore cross-linguistic variations in the trade-off between Pragmatics and Grammatical Structure. Specifically, this study explored the functional extension of noun-modifying constructions and nominalized complement constructions, and benefactive constructions, observed in a selection of Asian languages including Japanese, Korean, Chinese and languages of India by employing a parallel corpus.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：名詞化構文，名詞修飾構文，授受構文，連体形の終止形化，機能拡張，語用論と文法のインターフェイス，言語類型論，歴史語用論，推論

## 1. 研究開始当初の背景

語用論と文法の分担関係は言語間でどのように異なっているか、ということは Radical Pragmatics など語用論の理論的研

究の中では古くて新しい挑戦課題として考究されてきたが、これまでの言語類型論、機能主義的言語学の中で十分に解明されて来なかった (Ariel 2008 などを除く)。

一方、日本語は名詞修飾構文、受動構文等に関して語用論的な解釈の融通性が高い言語であることがこれまでの語用論や対照言語学的研究で明らかにされてきていた(例:松本善子氏の一連の研究)が、言語類型論、機能主義言語学の観点から、日本語と他言語の間で語用論と文法の分担関係がどのように異なっているかということは解明されていなかった。

## 2. 研究の目的

本研究はこのような研究の動向を背景に、アジア言語を中心に、日本語で見られる構文の語用論的機能拡張現象や構文の解釈の融通性はどの程度他言語と比べて際立っているかを、研究代表者(堀江)が分担者(パルデン)とともに開発してきた、認知言語学と言語類型論の複合的研究分野である「認知類型論」の分析手法を用いて明らかにすることを目的として研究を行った。

本研究の目的は以下の2点に集約できる。

(I)名詞修飾構文、名詞化構文、授受構文等に見られる語用論的機能拡張現象はどの程度日本語に特有で、どの程度他のアジア言語にも共通して見られるかを明らかにする。

(II)上記の通言語的分析を通して、文法と語用論の分担関係の通言語的バリエーションを明らかにし、「語用論の文法への侵襲」ともいうべき現象がどの程度日本語に特有であり、どの程度他のアジア言語にも共通して見られるかを明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究では、研究代表者が分担者とともにこれまで複数の通言語的文法・語彙現象に適用してきた「パラレスコーパス」と「語用論的文脈解析」、さらに第二言語習得データを援用して、構文の語用論的機能拡張現象および構文の解釈の融通性の言語間の相違点および類似点を分析した。

特に本研究では、現在進行中の語用論的機能拡張現象、文法化現象を捉えるためにインターネットのブログ、チャット等の実例を積極的に利用した(韓国語の連体形の終止形化現象に関して)。このデータ収集方法は文法化研究に応用され始めているがまだ十分にその有効性が検証されていない。本研究によって、「歴史語用論」的な観点から現在進行中の語用論的機能拡張現象の解明にインターネットからの言語使用データが大きく貢献することが確認された。

また、韓国人日本語学習者の授受動詞「hay patta」の容認性アンケート調査結果も用いた。第二言語習得データを文法化研究

に用いるという試みはまだ萌芽的であるが、本研究によって第二言語習得データを文法化研究に応用することの有用性が確認された。

## 4. 研究成果

本研究の研究成果は以下の3点にまとめることができる。

### I)名詞修飾構文・名詞化構文の語用論的拡張

日本語、韓国語、中国語、マラーティー語において名詞修飾構文の語用論的拡張の程度は著しく異なった。具体的には、日韓語は、中国語、マラーティー語に比べて著しく拡張の度合いが大きかった。日韓語を比べた場合、日本語は韓国語よりも相対的に拡張の度合いがさらに大きかった。

名詞化構文に関しては日韓語の間で名詞修飾構文と同じ程度の違いが観察された。名詞修飾構文はヨーロッパ言語では「関係節」として扱われてきたが、アジア言語では文法関係など統語的要因のみならず語用論的な成立要因を考慮しなければならず、近年 Keenan and Comrie (1977)の関係節の接近可能性の古典的研究もアジア言語の名詞修飾構文の観点から再検討が必要であるという主張が Comrie や松本善子らによってなされている。本研究の成果 (I) は言語類型論のこのような動向に対して重要な貢献をなすものである。

### (II)連体形の終止形化現象

日韓語に共通して「連体形」が「終止形」の位置で「断定の回避」という語用論的機能を発達させる現象が見られた。韓国語の場合はこの現象がインターネットにおいて顕著に見られ、インターネットでの言語使用が語用論的機能拡張を動機付けている実態が裏付けられた。

この現象は、日本語においては古典語において「連体止め」として知られる現象の現代語版ともいうべき現象である。日本語においては「連体止め」が一般化した結果、「連体形と終止形の同一化」という重要な文法変化が生じたが、韓国語においては連体形と終止形は厳密に区別されているため、インターネット文体を中心に見られる「連体止め」の現象は、韓国語の文法体系にどの程度の影響を与えていくかが着目される興味深い現象である。本研究はこの現象の解明にデータ面と理論的考察・分析の両面で重要な貢献をなした。

### (III)授受動詞の語用論的拡張・文法化現象

日本語は授受動詞が語彙的に分化しておりこれらが補助動詞化する文法化現象も確立している(例:~てくれる、~ても

らう)。

一方韓国語は、授受動詞の語彙的  
分化の日本語よりは限られており、補助動  
詞化もより限定的であり、特に「～てもら  
う」に相当する「-hay patta」という補助動  
詞は存在しないとされてきたが、コーパス  
および第二言語習得データに基づいて、ま  
だ十分確立していないが、韓国語で「-hay  
patta」が文法化しつつある文法化の萌芽的  
現象が確認できた。

これまで言語類型論、機能主義言語学で  
は「give」動詞のベネファクティブ（補）  
助動詞化現象が主として研究されており、  
「receive」動詞のベネファクティブ（補）  
助動詞化現象は、通言語的に「有標」な現  
象として体系的に解明されてこなかった。  
本研究はベネファクティブ（補）助動詞化  
現象の機能類型論的に日韓語の観点から  
重要な貢献をなした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

- 1) Horie, Kaoru. “The Interactional Origin of Nominal Predicate Structure in Japanese: A Comparative and Historical Pragmatic Perspective.” *Journal of Pragmatics* 44: 663-679. 2012. (査読有)
- 2) 長沼由香里, 堀江薫 「「非原型的」修飾機能の観点から見た日英語の名詞修飾構造：パラレルコーパスに基づいて」 *Studies in Language Sciences* 11, Kaitakusha publishers, 174-197, 2012. (査読有)
- 3) Horie, Kaoru. “Versality of nominalizations: Where Japanese and Korean Contrast.” In: Yap, Foong Ha et al. (eds.), *Nominalizations. In Asian Languages: Diachronic and Typological Perspectives*, John Benjamins, 473-497, 2011. (査読有; 巻数はなし)
- 4) 堀江薫・金廷珉, 「日韓語の文末表現に見る語用論的意味変化－機能主義的類型論の観点から－」 『歴史語用論入門』大修館書店, 193-207, 2011. (査読有; 巻数はなし)
- 5) 堀江薫 「言語類型論」 『日本語学』11月臨時増刊号 30.14, 76-85, 2011. (査読なし)
- 6) 秋葉多佳子, 堀江薫, 白井恭弘. 「格助詞の学習・指導における投射モデルの応用」 『言語学と日本語教育 VI』くろしお出版, 29-45, 2010. (査読有)
- 7) 金廷珉, 堀江薫, 「「のだ」構文の談話機能に関する対照言語学的考察－韓国語

の「KES-ITA」との対比を通じて -」  
『言語学と日本語教育 VI』くろしお出  
版, 175-190, 2010. (査読有)

- 8) Pardeshi, Prashant, Kaoru Horie, and Shigeru Sato. “An Anatomy of the Posture Verb ‘bar Ne’‘sit’ in Marathi: A Cognitive-Functional Account.” In: Rice Sally and John Newman (eds.), *Empirical and Experimental Methods in Cognitive/ Functional Research*. CSLI. 91-108, 2010. (査読有; 巻数はなし)
- 9) 堀江薫. 「Japanese/Korean Linguistics Conference, 日韓言語学会」 『日本語学』 29.7, 48-50, 2010. (査読なし)

[学会発表] (計 61 件)

- 1) 堀江薫. 「日韓語の文末名詞化構文のタイポロジー：機能的類型論の観点から」 中部言語学会第 59 回研究会, 静岡県立大学 (静岡市), 2012 年 12 月 8 日 (招待講演)
- 2) Horie, Kaoru. “Corpus-driven Diversification of Pragmatic Studies.” 日本語用論学会 2012 年度年次大会招待シンポジウム, 大阪学院大学 (大阪府), 2012 年 12 月 2 日 (招待講演)
- 3) 堀江薫 「認知類型論の応用的展開：第二言語習得研究との関連を中心に」 日本認知言語学会第 13 回大会招聘シンポジウム, 大東文化大学 (東京都), 2012 年 9 月 9 日 (招待講演)
- 4) Horie, Kaoru, Joungmin Kim, and Seongha Rhee. “Stand-alone Nominalizations in Japanese and Korean: Parallelism and Divergences.” Workshop on Epistemicity, Evidentiality, and Attitude in Asian Languages, 香港科学技術大学 (香港市、中国), 2012 年 9 月 4 日
- 5) An, Hyeryeon, and Kaoru Horie. The grammaticalization of a Korean ‘receive’-verb *patta*: A contrastive study with Japanese. The 5<sup>th</sup> *New Reflections on Grammaticalization* Conference, U. of Edinburgh, UK, 2012 年 7 月 19 日
- 6) Horie, Kaoru. “Percept and Concept in Korean and Japanese Grammatical Constructions: A Semiotic and Typological Perspective.” The 1st International Conference on Homo Sensus: Perception, Emotion, Semiosis, 韓国外国語大学 (ソウル市、大韓民国), 2012 年 6 月 8 日 (招待講演)
- 7) Horie, Kaoru. “The Convergence of Stance-related Functions on Nominalization in Modern Japanese: A Contrastive Study with Korean and Classical Japanese.” Workshop on Discourse and Stance, 香港

- 科学技術大学（香港市、中国）、2012年5月8日（招待講演）
- 8) Horie, Kaoru. “A Comparative typological Study of “Convergent” Grammaticalization Pathways between Japanese and Korean: With English as a Neutral Bystander.” 日本英語学会 Spring Forum, 甲南大学, (神戸市) 2012年4月22日（招待講演）
  - 9) Horie, Kaoru. “Typology of Languages and Socio-cultural Practices 国際シンポジウム「社会的能力はいかに発達するのか」, 東京学芸大学（東京都小金井市）, 2012年3月18日（招待講演）
  - 10) 堀江薫「主節現象」と「従属節の主節化」から見た日本語の特徴：他言語との比較を通じて日本語文法学会第12回大会, 東京外国語大学（東京都府中市）, 2011年12月3日（招待講演）
  - 11) Horie, Kaoru. “Matrix Clause and Subordinate Clause: Bidirectional Extension and Motivating Factors.” 第12回日本認知言語学会大会, 奈良教育大学(奈良市), 2011年9月17日
  - 12) Horie, Kaoru. “What can Cognitive Typology Reveal about East Asian Languages? A Look at Cross-linguistic and Applied Linguistic Data.” 第11回国際認知言語学会, 西安外国語大学(西安市, 中華人民共和国), 2011年7月13日. (基調講演)
  - 13) Horie, Kaoru. “The “Open-Endedness” of Japanese Utterances: From Interactional, Historical, and Comparative perspectives.” The 12<sup>th</sup> International Pragmatics Association, U. of Manchester, UK., 2011年7月7日.
  - 14) 堀江薫「受動構文・使役構文と主観性・間主観性：日本語と他のアジア言語の対照を中心に」公開講演会, 愛知県立大学サテライトキャンパス(名古屋市), 2011年, 3月11日（招待講演）
  - 15) 堀江薫「文の終結性」の観点から見た日本語のスピーチレベル：対照言語学・談話機能の観点から」The 7<sup>th</sup> International Conference on Practical Linguistics of Japanese, サンフランシスコ州立大学, 米国, 2011年3月5日
  - 16) 堀江薫「日本語と中国語のモダリティ体系の認知類型論的対照－中国人学習者の日本語習得過程の考察に基づいて－」第17回「中国語話者のための日本語教育研究会」名古屋大学（名古屋市）, 2010年12月18日（招聘講演）
  - 17) Horie, Kaoru. “Subjectivity and Inter-

- subjectivity as an Ingredient of Grammatical Constructions: Passive and Causative Constructions in (some) Asian Languages.” Linguistics colloquium, 国立台湾大学（台北市, 台湾）, 2010年11月26日（招聘講演）
- 18) Horie, Kaoru. “Noun-modifying Constructions in Japanese, Korean, and Mandarin Chinese: Functional Gradience and Pragmatic Interpretation.” Linguistics Colloquium, 国立台湾大学（台北市, 台湾）, 2010年11月26日（招聘講演）
  - 19) 堀江薫「認知類型論からみた日本語の論理」認知言語学会11回大会ワークショップ, 立教大学（東京都）, 2010年9月11日

〔図書〕（計3件）

- 1) Shirai, Yasuhiro and Kaoru Horie. (eds.) *Studies in Language Sciences* 11, Kaitakusha publishers (221 pages), 2012.
- 2) Setsuko Arita, Yuko Goto Butler, Kaoru Horie, Eric Hauser, Yasuhiro Shirai, Reiko Mazuka, and Jessika Tsubakita. Kurocio (eds.) *Studies in Language Sciences* 10, Kurocio publishers (220 pages), 2011.
- 3) Hirakawa, Makiko, Shunji Inagaki, Setsuko Arita, Yuko Goto Butler, Kaoru Horie, Eric Hauser, Yasuhiro Shirai, and Jessica Tsubakita. (eds.) *Studies in Language Sciences* 9. Kurocio publishers (195 pages), 2010.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

堀江薫 (HORIE KAORU)  
名古屋大学・国際言語文化研究科・教授  
研究者番号：70181526

### (2) 研究分担者

パルデシ・プラシャン (Pardeshi Prashant)  
人間文化研究機構国立国語研究所・  
言語対照研究系・教授  
研究者番号：00374984

### (3) 連携研究者 連携研究者なし。